# ゆきわり草

(公社)新潟県理学療法士会ニュース　No.202

発　行　日　　令和５年３月10日
発行責任者　　佐藤　成登志
会　員　数　　1,607名
事　務　局
公益社団法人 新潟県理学療法士会 事務局
新潟市中央区南笹口1丁目1番38号
コープオリンピア笹口303号
電 話　025－250－7660
FAX　025－250－7661

## 2021～2022年度の士会活動を振り返って


公益社団法人　新潟県理学療法士会
会長　**佐　藤　成登志**


2022年度も終わろうとしております。会員の皆様方におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。COVID-19と季節性インフルエンザへの対策など、日々の仕事や生活においては、大変不自由な生活を強いられたことかと思います。しかしながら、ワクチン接種や感染対策等を十分に行いながら少しずつではありますが、以前の生活に戻ってきております。会議や研修会など、リモート参加による効率性を感じる一方で、対面による大切さも再確認させているのではないでしょうか。2021～2022年度の士会活動を振り返り、次年度に向けた方向性をお伝えしたいと思います。

2021年度からの２年間は、重点目標を掲げて取り組んできました。特に**「管理者ネットーワークの構築」を最重点目標**と位置づけ、県内３ブロック（上越・中越・下越ブロック）を６ブロック（新潟西・新潟東・佐渡ブロックを追加）に再編成してネットワーク構築を進めてきました。ネットワークを基に各ブロックの事業計画に基づいた活動（学術・公益・地域包括・災害・政治事業など）を展開することができました。今後さらに組織強化を行いながら継続的かつブロックの課題に沿った活動ができるように考えています。

2021年９月に本士会主幹による**第40回関東甲信越ブロック理学療法士学会を開催**しました。1,000名を超える参加者のもと、現地とWeb参加とを合わせたハイブリッド形式といった新しい学会スタイルの提案を新潟から発信することができました。また、本士会が創設50年を迎えるにあたり、2022年６月に**50周年記念式典を開催し記念誌を発刊**することができました。ご尽力頂きました関係各位に改めまして深謝申し上げます。

**新潟県リハビリテーション専門職協議会と新潟県地域包括ケア支援専門職協議会における他団体との連携を強化**しながら事業を展開してきました。県からの受託事業として介護予防に資する研修会の企画・運営や本士会が事務局となり地域ケア個別会議への助言者派遣や助言者育成研修会の企画・運営を継続的に行ってきました。また、新潟県災害福祉広域支援ネットワーク協議会に構成団体として入り、**災害福祉支援チーム（DWAT）として活動**するための体制をつくりました。さらに、新潟シティマラソンにおける車いす参加も可とするための要望書を新潟市長に提出し、2022年10月に**ファンラン・ユニバーサルランが実現**し、当日は会員の方からもご支援を頂きました。今後も継続的な連携・活動・支援を行っていきます。

理学療法士の強みである転倒予防、関節痛（腰痛・膝痛など）予防方法を活用して**中・高年齢労働者の就労支援を展開**してきました。日本理学療法士協会の就労支援モデル事業に応募・採択され、県内のシルバー人材センター，産業界，労働基準協会に対する支援を行いました。今後の理学療法士の職域拡大や外部資金獲得に繋がる事業展開をしていきます。

その他、**理学療法士の働き方・処遇への取り組み、入会者・休会者・退会者への対策、県民・PTに向けた戦略的広報、郡市医師会との連携、組織代表を国政に出すための組織的支援**などについて取り組んできましたが、十分な成果に繋がることができておらず、今後も継続的に行っていく予定です。

本士会は、定款により役員の任期が２年間と定められており、2023年度は役員総選挙により新体制になります。2023年度は、今まで積み上げたことをさらに推進して、会員および県民のために事業展開を行っていきたいと考えております。

目　　次


2021～2022年度の士会活動を振り返って…… 1
リレーエッセイ…… 2
厚生部より「祝電申込書」についてのお知らせ …… 2
表彰委員会からのお知らせ…… 3
2022年度公益社団法人新潟県理学療法士会
第３回理事会議事録…… 4
2022年度公益社団法人新潟県理学療法士会
第４回理事会議事録…… 6
第９回日本栄養・嚥下理学療法学会
学術大会ご案内…… 11
学術局生涯学習部だより…… 12
事務局ニュース…… 16
育児休業割引、シニア割引のご案内…… 17
広報部ニュース…… 18
編集後記…… 18

*リレーエッセイ 1*

## 「私の好きな趣味」

岩室リハビリテーション病院　**大　瀧　健　太**

私の好きな趣味は魚釣りをすることです。魚釣りといえば餌を使う釣りを連想する方も多くいると思いますが、私は、主に疑似餌のルアーを使い、釣りをしています。ルアーは、餌を使った釣りと違い、糸を垂らして待つだけでは、魚を釣ることが出来ません。常に糸を巻き、ルアーをいかに魚のように泳がせるかによって釣れるかどうかが変わってきます。場所や潮の流れ、風向き、ルアーの種類等も釣れるかどうかに関わってくるため、釣りはとても奥が深いと思っています。自分なりに考え、魚を釣ることができた時は、とても嬉しく、達成感があります。また、患者さんで釣りをしていた方や釣りをしている際に会った釣り人と共通の話題で盛り上がることも多くあり、話をすることも楽しみの一つになっています。また、釣りをしつつ、海を眺め、潮風に当たることで、心がやすらぎ、気分転換をすることが出来るため、海が好きな方や魚釣りに興味がある方はぜひ挑戦してみて下さい。次回は、長岡西病院の桑原佑弥さんです。よろしくお願いします。

## 厚生部より　「祝電申込書」についてのお知らせ

県士会では会員の結婚式に際しまして、ご結婚のお祝い電報を送っております。

ホームページ右下の各種様式から「祝電申込書」をダウンロードして必要事項を記入の上、メールに添付して県士会事務局まで送ってください。

結婚式が決定している会員本人または会員の同僚や友人からでも結構です。

会員の福利厚生のための制度ですので、是非ご利用ください。

**メール宛先：新潟県理学療法士会事務局**

**jimukyoku@nipta.jp**

# 深川新市前会長が厚生労働大臣表彰を受賞されました！

令和４年度公衆衛生事業功労者に対する厚生労働大臣表彰に士会より深川前会長を推薦し、この度受賞されることとなりました。この表彰は、多年にわたり、健康増進、疾病予防、生活衛生、衛生教育等の公衆衛生事業のために献身的活動を続け、その功績が特に顕著である個人、団体が対象となる賞です。深川氏は、新潟県理学療法士会役員を通算34年、日本理学療法士協会役員を24年に亘り務められ、本士会においては、会長を16年間、副会長を通算８年間務められています。士会役員として、全国学術研修大会、全国学術大会を始め関ブロ学会、県士会学会ほか、他団体との共催学会を多数開催されたほか、新潟県社会福祉協議会、市町村の各種審議会委員も務められ、医療関係者、友好団体と協力し県民向け講演会や講習会、公開講座、セミナーを開催し理学療法・士の啓発、普及に尽力されました。

中越大震災、中越沖地震に際しては、対策委員会を立ち上げ、新潟県と協力し長年にわたり被災地の生活不活発病予防及び支援を行い、新潟県知事、柏崎市長より感謝状が贈呈されました。また、国民体育大会「トキめき大会・障がい者大会」のメディカルサポート委員会を組織し大会の成功に協力し、新潟市長より感謝状が贈呈されました。

平成26年からは新潟県の事業「専門職の育成及び派遣調整事業」を受託し、平成27年には、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会とともに新潟県リハビリテーション専門職協議会を設立、理学療法士会内に事務局を設置、さらに、平成29年には新潟県地域包括ケア支援専門職協議会を理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会、薬剤師会、栄養士会、歯科衛生士会と協働し設立、事務局を担当し市町村事業に専門職6職種の派遣調整業務に活躍されています。

表彰式は令和５年２月27日東京都で厚生労働大臣隣席のもと行われました。深川先生、これからも私たち会員を導いていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

この度は誠におめでとうございました。

令和５年３月

表彰委員会　中山　裕子

# 2022年度
# 公益社団法人　新潟県理学療法士会
# 第３回理事会議事録

日　時：2022年９月28日　19：00～21：30
場　所：新潟県理学療法士会事務局およびwebにて実施
参加者：
理事　佐藤成登志、中山裕子、髙鳥真、郷貴大、小林諭、田村友典、松林義人、田中健、立石学、大野智也、棚橋泉、上路拓美、柳保、小川恵一、飯田晋、藤澤明彦、山本典子
委員長　深川新市、五十嵐進
監事　太田智英、堀川武範

**議　事**

１．会長挨拶
２．報告事項
１）各部局から事業報告・事業計画について資料を基に報告。
＜資料補足＞
高年齢労働者の就労支援モデル事業について
中山副会長より説明

**副会長**：各地区より申し込みが来ていて実施する予定。申し込みが来た地区の方々には、お声掛けをして、見学をしていただき、来年度からスタッフとして参加できるとよいと考えている。今年度は無料、来年度以降は有料、金額については企業の方と相談する。

**会長**：今年無料ということもあるが、ニーズが高い。国の施策と一致しており、我々が入り込んでいける分野だと思う。

**藤澤**：将来的な見通しについて。今は各職場に所属している会員が行く形になっているが、将来的に新潟県理学療法士会が理学療法士を雇用しての事業展開を考えているか？

**副会長**：会としては職域と雇用の拡大を目標にしている。この事業には経験も必要なので、質を保ちつつ、雇用拡大につながるようにすすめていきたい。

**会長**：現在は企業への周知を目指していて、各事業ごとに個別に対応している。次の段階は人材バンクでの対応、その後、企業の雇用に移行していければいいと考えている。元々は、会員からの会費運営だけでなく、外部資金を得ることが根本的なねらい。提供できるものを均一化することも目標。

**五十嵐**：モデル事業としてPT協会から予算がついているということは、PT協会にもねらいがあると思うので、継続して進めてほしい。

**会長**：協会としては、会員からの会費運営だけでなく、外部資金を得ることが根本的なねらいである。提供できる資料などを均一化することも目標である。

厚生部より新人歓迎会の補助について

**藤澤**：社会情勢を見ると歓迎会が開きにくいとは思うが、新人１名に2,000円の補助を予算化しているので、利用してほしい。

財務部より

**小林**：高年齢労働者の就労支援モデル事業の助成金については、PT協会から９月上旬に100万円振り込まれている。

広報部より社旗作成の時期について

**髙鳥副会長**：12月の合同学会（リハ専門職学術大会）に披露できればいいと思うが。

**松林**：見積もりを取って、12月に間に合うようにすすめたい。

生涯学習部より症例検討会の開催について

**田中**：10月５日に新潟東・西ブロックで、新生涯学習システムについての説明会をするので、ぜひご参加いただき、生涯学習プログラムをすすめていただきたい。
症例検討会の申請期間を短縮した。

就業支援部より

**上路**：中山副会長と一緒に「働きやすい環境づくり検討委員会」に出席した。資料をGoogleドライブにアップしてあるのでご覧いただきたい。また、10月１日交流会を予定している。ぜひ、参加していただきたい。

スポーツ活動支援部より新潟シティマラソンのサポートについて

**会長**：ユニバーサルランに関して市長に要望をし、その後、新潟日報から、取材協力を依頼されていたが、どうなっているか？

**飯田**：会員の山田さんより、新たに挑戦する人を紹介していただき、取材することになっている。

**会長**：ユニバーサルランのサポートの数等は足りているか？

**飯田**：去年の実績を元に検討し、足りている。新潟県障害者スポーツ協会と一緒に車いす参加者の安全管理を行う。

下越ブロック

**松林**：10月20日に下越ブロックの研修会を実施する予定。症例報告とシンポジウムを予定しているので、皆様も参加していただきたい。

佐渡ブロック

**中山副会長**：10月２日に佐渡ブロックの研修会が予定されており、県士会組織の説明をしてきたい。

上越ブロック

**山本**：高年齢労働者の就労支援モデル事業の開催に合わせ、上越ブロックでは、それをきっかけに会員が勉強できるための研修会を実施する予定。実際の講義場面や、企業での指導経験などの内容で実施したい。

ブロック担当者会議に関して

**中山副会長**：今まで、ブロック担当者会議を、会長・副会長が主で実施してきたが、10月11日の会議から、山本理事に引き継ぐことになった。

**山本**：各ブロックの特色を生かしたブロック運営ができるよう、お手伝いしていきたい。

災害対策委員会より、新潟県北豪雨水害に関して

**会長**：資料の修正

新潟県リハビリテーション専門職協議会第１回対策会議　８月８日⇒８月６日に訂正

第２回リハビリテーション専門職学術大会対策会議　８月23日⇒８月16日に訂正

**郷副会長**：被災された方５名から連絡があり、そのうち１名の方が、協会費の減免・見舞金の申請の対象となっている。締め切りは11月末なので、申請を促したい。

**会長**：避難所を回って、車いすが必要な個所に車いす３台を届けたが、避難所の閉鎖に伴い、引き揚げた。仮設住宅ができており、リハビリテーション職で支援できることはないかを村上市長を通じて担当部署に聞いている。

**松林**：災害時の対応で、PT協会で統一したマニュアルはあるか？

**会長**：今のところ、PT協会ではないが、新潟県では３士会合同の災害マニュアルがあり、それに基づいて今回は動いている。

地域活動推進委員会

**会長**：リハ専門職協議会でいただいている予算に加えて、コロナ関連のパンフレット作成で追加予算を頂いていると記憶しているが、今年度もパンフレットを作成予定か？

**深川**：10月７日（金）に３士会での会議があるので、草案を持ち寄り検討したい。

学会準備委員会より第２回新潟県リハ専門職学術大会について

**柳**：特別講演がOT士会の市民公開講座と同じになっているが、予算の使い方等、どうなっているか？

**髙鳥**：基本的には、特別講演と市民公開講座の位置づけは違う。資金は、学会の予算に加えて、OT士会からも出ているが、予算が混在しているわけではない。

**会長**：ポスターの作り方など誤解を招きやすいところはあったので、予算の使い方などがすっきりするような形に今後しなければならない。

障がい児・者支援委員会

**会長**：講師料のことで、石井委員長から問い合わせが来ていた件についてはどのようになるか。

**髙鳥**：新潟県士会の講師料は、１コマ（＝90分）単位の計算になっている。今回問い合わせのあった研修会は、半日なので、２コマ計算でよい。

政治活動推進委員会

**五十嵐**：今回の選挙結果に関して様々な分析をしている。自分たちの足元を固め、職域代表を送り出せるよう、活動していかなければならない。会員に、関心を持ってもらえるよう活動していきたい。また、協会からの働きかけも、手段を変えていく必要があると考えている。

２）中越ブロック研修会アンケートの報告

３．協議事項

メーリングリストについて

**上路**：現在使用しているメーリングリストは大学病院の教職員限定であることに加え、現状のメーリングリスト（UMIN）の事業縮小もあり、今後についてどうするか確認したい。各ブロックのメーリングリストにも同様の問題がある。管理者が変わっても管理できるようにするにはどうしたらよいか？

**髙鳥**：チャット系のものがいいのか、単なるメール

がいいのか、LINEなどSNSの利用も含めて調べて検討した方がいいと思う。

⇒今後調査し検討していくことで承認

**フレイル予防事業について**

**大野**：新潟市が実施しているフレイル予防事業が、来年で５年目の区切りになる。フレイルトレーナーの養成と各区での事業への派遣調整、その他のミーティング運営を実施しているが、来年度、単年度ではあるが、個人ではなくて、新潟県理学療法士会として委託されての事業としてやってみることになる。

**会長**：業務量としては事務処理等増えるが、外部資金を新潟県理学療法士会に入ることや、今までのフレイルトレーナーの養成の実績を、サポーター養成者として全県に広げることを狙いとしている。財務等への負担を減らしながらやっていきたい。

**中山**：金額の問題ではなく、少しでも士会に予算が下りるようになることが大切。

⇒来年度の県士会の事業として実施していくことを承認

**地域包括ケアシステム推進部等の活動時の会員に対する保険適応について**

**大野**：会員が施設外に出た時の怪我等の保証に関しての確認をしてほしいと、会員から要請があった。

**郷**：PT協会加入の保険の対象範囲に関して確認する。

**休会者の問題、生涯学習の問題について**

郷副会長より休会者のデータについて説明あり

**立石**：休会者または未入会者については、職場長がキーマンになると思うが、個人情報ということもあり、その職場長自体が会員なのか非会員なのか、県士会としては知る手段がなく、突破口がないように感じる。

**会長**：ブロックのネットワークができてきたので、情報収集の手段はあると考える。組織として、情報を把握したうえで、計画的にやっていきたい。多くの人に伝わる情報の手段も考えていきたい。

**松林**：休会中の方が、復会するときの不安が解消されるような試みも必要だと思う。10月５日に広報担当者会議で、入会促進のための取り組みがテーマになっているので、また、情報共有したい。

⇒継続課題

会長　佐藤成登志
監事　太田　智英
　　堀川　武範
以上

# 2022年度
# 公益社団法人　新潟県理学療法士会
# 第４回理事会議事録

日　時：2022年12月25日　10：00～14：00
場　所：新潟県理学療法士会事務局およびwebにて実施
出席者：
理事　佐藤成登志、中山裕子、髙鳥真、郷貴大、小林諭、田村友典、松林義人、田中健、立石学、大野智也、棚橋泉、小川恵一、飯田晋、藤澤明彦、山本典子
ブロック長　荻井夏江、本間宏彰、松本香好美、諏訪和彦
委員長　深川新市、五十嵐進、小野塚智則、石井康明、
監事　堀川武範

**議　事**

１．会長挨拶
２．報告事項
１）各部局から事業報告・今年度の今後の事業計画について資料を基に報告。

**佐藤会長**：今年度の活動において、以下の三点が大きな収穫。
①高年齢労働者就労支援モデル事業に関してオファーを頂き、各ブロックでの展開が進んできた。
②村上市への災害支援を継続的に実施できた。
③佐渡ブロックの研修会で、県士会活動の説明を直接会員の方々に伝えることができた。

**中山副会長**：高年齢労働者就労支援モデル事業について、今年度は協会の委託金150万円で実施している。来年度以降の資金に関して、新潟産業保健総合支援センターから、全国組織の調査研究へのお誘いがあり、佐藤会長に申請していただいた。審査が通れば100万円の委託金を受けられる。事業の内容は、これまでの内容をさらに拡大して、

10～15社の事業者、各30名程度の参加者に対して、身体測定と講演を実施、最終的には350名程度の労働者のデータを集めて提供するという内容。各ブロック長、理事の協力を得て、展開していきたい。シルバー人材センター関係では、協会から継続で委託金（約50万円）をもらって、100名規模での身体測定を実施したい。

＜事務局＞

**郷**：次年度（４月）からは、事務員の年末調整をしていく予定。雇用保険にも加入していく予定。

＜厚生部＞

**佐藤**：祝電・弔電の利用が進まないのが気になる。利用を勧めてほしい。

**郷**：シニア・育休割引の周知に加えて、促進していきたい。

**藤澤**：懇親会の開催も難しい状況だが、新人の懇親会補助も利用してほしい。

＜財務部＞

**小林**：次回の理事会で予算案について審議予定。後日資料の提出をお願いしたい。

＜広報部＞

**松林**：社旗完成。商標登録申請終わったが、費用清算はこれから行う。

**髙鳥**：ホームページで、学会のページがまだ終了していない。タイムラグがあるが、どうなっているか？

**松林**：この部分は業者に委託しているため、こちらではできない部分である。業者に連絡する。

＜生涯学習部＞

**田中**：士会承認の研修会の数は徐々に増えているが、申請する病院は限られている。症例検討会も、まだ２～３病院。推進していきたいので、士会承認の症例検討会をブロック長にも協力していただきたい。学会で、ポイント申請にQRコードを使って頂いた。アプリの設定等、工夫がいるが、コツはわかったので、今後進めていただきたい。

**髙鳥**：新生涯学習制度の浸透が十分ではない。QRコードの件も含めて手厚い説明が必要。

**田中**：登録理学療法士の更新時に失効する会員が出ないようにしたい。必要に応じて説明会を実施するので、声をかけていただきたい。

**髙鳥**：領域別の専門部会は、今年度３領域で始めた。今後、募集をかけていく。研修会の運営自体はできるようだが、財務の処理等は、まだ支援が必要。ゆくゆくは専門部会で、自立して運営するようにしたい。

**藤澤**：生涯学習について、動画など撮影し、県士会のホームページに掲載するのはどうか？

**田中**：何かの折に撮影。掲載を検討したい。

＜学術誌部＞

**立石**：今後の予定として理学療法新潟の発刊に向けて、査読作業を進める。

＜就業支援部＞

**中山**：10月１日にオンラインで交流会を実施した。会員の参加は少なかったが、中身は充実していた。仕事と家庭の両立について、会員の悩みを聞き、経験者の意見も聞くことができた。

＜公益事業部＞

**松林**：下越ブロックでのキャンペーンについて、７月は中止になった。代替イベントを企画していたが、会場の都合で中止になった。

＜渉外部＞

**佐藤**：岩村県議会議長はじめ、意見交換など活発な会があったが、感染等で中断していた。岩村県議会議長から、再開の提案があった。連盟を含めた士会としての施策を提案していきたいので、みなさんにご意見いただきたい。

＜スポーツ活動支援部＞

**佐藤**：スポーツ支援については、運動指導士や柔道整復師との繋がりが多いが、理学療法士との連携を強化していきたい。

**飯田**：単発の講話依頼でなく、来年度以降も継続支援になる場合は、士会に相談させていただく。

**中山**：運動指導はどのような職種が、どのように指導しているか？

**佐藤**：NPO法人や、スポーツクラブに関しては、大学の他の学部でもかかわっている。理学療法士以外との関わりにも今までの経緯があるが、我々理学療法士は、医学的、予防的な部分は担っていけるとよい。

**中山**：介護保険の通所Cも健康運動指導士が、かなりシェアを占めている。理学療法士ができるところに、介入していけたらよい。

**深川**：新潟県の通所C事業に関しては、実際に派遣を依頼しても、PT・OTで、出てきてくれる人が少ない。医学的な知識は我々が強いが、健康運動指導士が職域を奪われないようにがんばっている部分もある。ただ県からは、通所Cに関しては、ぜひ PT・OTにかかわってほしいという要望はあ

る。

**五十嵐**：痛みや、怪我にはPTが強いはず。体操に関しては運動指導士、個別のけがや問題はPTという風な住み分けができるようにしなくてはならないが、我々は、病院や施設に所属している会員が多く、必要な時に、即時に動けないため、介入しにくい、という現実がある。

**佐藤**：ブロックでの活動が進んできて、少しずつではあるが、介入できるようになっている。少しずつでも継続して進んでいくしかない。

**深川**：健康運動指導士の8割はフリーランスである。頼まれれば対応しやすい。県士会として、事業部を立ち上げない限り、仕方ない。

＜上越ブロック＞

**荻井**：高年齢労働者就労支援モデル事業の展開に合わせ、上越ブロックの研修会を企画している。（日程調整中）

＜中越ブロック＞

**諏訪**：２月25日の研修会に関して、上越ブロックとの共催で、①地域包括ケアシステム推進部、②災害対策委員会、③協会の活動についてなどの内容を、タイムスケジュールを決めて実施していきたい。ポイント申請についても、田中部長と相談して進めたい。

**大野**：地域包括の研修に関しては、他ブロックに関しての実情を知るという意味合いで、特にブロックごとに分かれずに進めていく予定。

＜新潟西ブロック＞

**松本**：組織図の中の事務局が決まっていなかったが、新潟医療センターの協力を得て、３名の事務局員が決まった。研修会の準備は、テーマに関するアンケートを進めている。

＜ブロック事業部＞

**山本**：ブロック事業について、会長直属の委員会でスタートし、会長・副会長のご指導の下、ブロック化を進めてきた。現在６ブロックのブロック事業を展開する上で、定期的にブロック担当者会議を実施しながら、進めている。今後、６ブロック全体の把握と、各ブロックの活動の補助が必要だと考えた。部員を増やしたり、活動する上で、予算も必要なので、検討していただきたい。

**中山**：各ブロック長の考えはどうか？

**松林**：ブロック担当者会議でも話題になったが、ブロック活動の助けになり、一人に負担が集中しない形になればよいと思う。

**諏訪**：ブロック長が悩んだり迷ったりしたときに、相談できるような仕組みになればいいと思う。

**深川**：事業計画に関する方針も統一するという意味か？

**山本**：活動の骨子は共通でも、各ブロックの活動の特色は出していきたい。一番の目的は、各ブロック活動を推進する上で、一人で悩んだり、苦労することが減り、効率よく進めることである。そのような内容が実現できる組織の形態になるように検討をお願いしたい。

＜災害対策委員会＞

**小野塚**：県北災害の活動については、３士会合同会議を何度か開催し、会長に実際に出向いていただいた。

**佐藤**：今回の活動でよかった点は、災害発生２日後には３士会合同で本部を立ち上げ、早急に動けたことである。現場に出向くと様々なことに気づくが、要望に応じて動いていきたい。

＜地域活動推進委員会＞

資料の訂正：市長村への派遣調整　４月～11月
70市町村⇒99市町村　369人⇒508人
元気講座・ケアプラン検討会への派遣
30人⇒45人

＜学会準備委員会＞

第２回新潟県リハビリテーション専門職学術大会
最終参加者：PT・363名　OT・191名　ST・51名
合計605名

延べでは900名を超える参加者があった。

全部で４名の表彰あり。PT協会は新潟中央病院の保地真紀子さん。

＜表彰委員会＞

**中山**：本年度厚生労働大臣表彰　深川先生に決定。２月に表彰式実施。今後、叙勲にも推薦していきたい。

＜障がい児・者支援委員会＞

**石井**：１月22日の研修会は、まだ申し込み締め切り前なので、希望者は申し込みをお願いしたい。

＜政治活動推進委員会＞

**五十嵐**：10月の選挙で小川先生が落選であったが、次点であることもあり、活動の準備をすすめている。半田連盟会長の辞任を受け、新しい会長の選挙と組織代表について、中央役員会で話し合うことになる。県士会としては、３士会合同で、県議

会の方との交流も必要。

**佐藤**：情報共有が大切。連盟の組織編成を作っていければよい。

＜選挙管理委員会＞

次年度の役員改選選挙に向けて、準備中。年明けに公示（ホームページに掲載、各施設にＦＡＸ送信、自宅会員へは郵送）

２）各部局より来年度（2023年度）の事業計画骨子について資料を基に説明

＜2023年度の県士会全体の活動の骨子について＞

**佐藤**：新規活動として、士会の組織再編制をすること、2023・2024年に新潟県士会が担当する関東甲信越ブロック協議会の協議会長・事務局について、新潟県理学療法士連盟との連携（組織体制の強化）などがあげられる。

**小川**：郡市医師会との連携に関しては、渉外部でも進めていかなければならないと考えているが、会長の具体的な見通しを教えていただきたい。

**佐藤**：各地区にご挨拶に伺うときに、具体的に、郡市医師会の中で、我々ができる具体的なことを話していきたい。それには、ブロックの代表の方にも、協力をしていただいて、そのブロックのニーズに合った具体的なお話をしたい。

**五十嵐**：政策協定として話していくと、介護保険に偏り、一般の会員関連したものになりにくかったりする。

**深川**：郡市医師会にご挨拶に行くとすれば、我々の事をわかっていただくために、自分たちが現在行っている活動や今後行える活動を説明した上で、アピールするとよい。最初会長・副会長が挨拶するとして、その後は、ブロック長と連携して、地域と近い関係を作っていくとよい。

**山本**：各部局や委員会で持っている情報を、ブロックごとでまとめて把握できるよう、情報整理が必要なのではないか。

**佐藤**：まずは、我々がやれることや地域の現状を郡市医師会にお伝えして、求められていることと合致している部分があれば、提供していきたいと考える。それぞれの部局や委員会の持っている情報をまとめ、それぞれの課題などを整理していくことが必要だと感じた。理事会等で共有しながら進めたい。

**小野塚**：災害では、単一士会での対応というより、３士会合同での対応になっていくというとらえでいいか？

**佐藤**：PT士会単独ではないと考える。災害は委員会がいいのか、部局に入るのがいいかは今後検討。

**小野塚**：県の防災計画保健医療総合本部にJRATが入るということが明記されることになる。人材の確保について、充実させなければならないと感じている。

**佐藤**：障がい児・者支援委員会の位置づけをどのような形がいいか？委員長の意向を伺っておきたい。

**石井**：研修は、領域別の専門部会として委員会独自でやらなくてもいいと思う。委員会として、学校とのやり取りなどは、士会としての力が必要。委員会としてあるのがいいのか、各ブロックの中に、障がい児者担当がいるという形がいいのか、今後相談していきたい。

＜生涯学習部＞

**田中**：症例検討は、基本的には病院単位で頑張っていただきたい。それができないところの受け皿として、士会主催の症例検討会を企画していきたい。

＜地域包括ケアシステム推進部＞

**深川**：新潟市のフレイル対策の委託事業はどうなっているか？

**大野**：正式書面は来ていないが、審議では来年度の200万の予算は通っていると聞いている。

＜渉外部＞

**小川**：郡市医師会との連携について次回理事会で具体的に提示したい。

＜上越ブロック＞

**荻井**：ブロックでの症例検討会に関して、来年度はまず、症例検討会が必要になる状況にある会員がいるかどうかの把握をしたいと考えている。

＜ブロック事業部＞

**山本**：ブロック担当者会議（年４回）、ブロック事業部員の依頼、各ブロック事業への補助業務等を予算化する予定。

＜災害対策委員会＞

**小野塚**：３士会合同災害リハビリテーションマニュアルの修正を骨子の中心において進めていきたい。

＜地域活動推進委員会＞

**深川**：事務局の費用は県に申請する。その他、助言者育成予算30万円を例年はマニュアルの配布やチラシ作成で使っていたが、徐々にその費用が掛からなくなってきた。来年度も継続して県士会に入

金されるので、その使用用途だけは報告してほしい。

**大野**：現在は新潟市に限定して人材育成しているが、全県に広げていくことなどに費用を使っていきたい。

＜学会準備委員会＞

**髙鳥**：来年度、再来年度は理学療法士会単独での学会。開催地などは検討中。

＜障がい児・者支援委員会＞

**石井**：特別支援学校への外部専門家派遣事業に向け、特別支援教育コーディネーターに調査結果をアピールしていきたい。年２回の部会の開催、小児理学療法マップの更新などをしていきたい。

＜政治活動推進委員会＞

**五十嵐**：２月25日に日本理学療法連盟の総会があるため、今年度の方針が決まってくる。皆さんに引き続き協力をお願いしたい。

３．その他＜県士会の講師謝金について＞

髙鳥局長より資料説明

**深川**：JPTAと新潟県士会会員の差はどういう意味か？差がなくてもいいのでは？

**髙鳥**：元々、県士会の会員がやるのと、JPTAとの間に差があったが、差をなくした方がいいと考えている。詳細までは決めず、企画者の宰領で判断できる部分を残しておいた方が良いかと考える。

**中山**：新潟県士会を安くしているのは、県外の方より、県士会会員に、もっと頼んでほしい、という意図もある。

**田中**：新生涯学習制度上では、県士会主催の研修会・学会は登録理学療法士以上でなければならない、という縛りはあるので、注意していただきたい。（士会主催の場合は、講師にもポイントがつく。）士会承認の研修会は登録理学療法士でなくてもよい。

**石井**：障がい児・者支援委員の中で講師をした場合、謝金を払っていなかった。今後どうしたらよいか。

**髙鳥**：部員がやっても、何らかの謝礼または、資料代、あるいは日当など、何らかの支払いが必要だと思う。

＜結論＞新潟県士会とJPTAの間の格差はなくし、登録理学療法士以外の人が講師をやる場合についてを加え、基準を再編成する。詳細は都度基準を応用して判断する。次回の理事会で最終的に決定し、４月から適用。

その他連絡等：

＊スポーツ庁に30代の理学療法士が入った。様々な提言に期待したい。

＊理事の役員改選については１月16日公示で１月23日～２月19日までが申請の期間。

次年度は理事を辞任したい場合には、連絡をいただきたい。今までの業務を途切れさせず、さらに発展させたいと考えているので、できれば適切な方を後任に推薦していただきたい。

会長　佐藤成登志
監事　太田　智英
　　堀川　武範

以上

# 第９回日本栄養･嚥下理学療法学会学術大会
# ご　案　内

高齢化で顕在化したサルコペニアやフレイル、栄養障害が世界的なメガトレンドであることを疑う余地はありません。高齢化大国である本邦の医療・介護・福祉専門職は、これらの栄養問題への対策を牽引するフロントランナーとしての役割を期待されています。運動・栄養介入は健康長寿社会の形成のための主軸を担う最も重要なファクターであると考えられています。本大会では、関連学会や多職種、自治体や関連企業との共存共栄を通して、栄養問題に対する方策を議論いたします。

本大会は日本栄養・嚥下理学療法学会が学会化して初めての記念大会となります。著名な講師による講演や教育セミナーに加え、新潟が世界に誇る企業および自治体とのシンポジウムなども企画しております。是非、多くの先生方の演題登録とご参加をお待ちしております。

会　　期：令和５年９月17日（日）、18日（月・祝）
会　　場：新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）（完全現地開催）
テ ー マ：栄養・嚥下理学療法の標準ステップ　―共存共栄へ向けて―
大 会 長：井　上　達　朗（新潟医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科）
演題募集：令和５年２月１日～３月31日を予定
プログラム（一部）：

○市民公開講座「健康長寿社会の形成に必要な運動と栄養の考え方（仮）」
　山　田　　実 氏（筑波大学）
○特別講演１「がんの理学療法と栄養・嚥下について（仮）」
　辻　　哲　也 氏（慶應義塾大学）
○特別講演２「心臓リハビリテーションと栄養・嚥下について（仮）」
　神　谷　健太郎 氏（北里大学）
○教育セミナー「栄養・嚥下理学療法の評価と実践」
　立　松　典　篤 氏（名古屋大学）
　松　嶋　真　哉 氏（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院）
　小　川　真　人 氏（神戸大学医学部附属病院）
　森　下　元　賀 氏（吉備国際大学）
○ジョイントシンポジウム
　①日本老年療法学会　②日本サルコペニア・フレイル学会　③日本リハビリテーション栄養学会
○研究推進特別企画「テーナイスステップな臨床研究　―U30・一般病院からの挑戦―」
　小　島　　将 氏（嬉泉病院）
　大　坪　拓　朗 氏（西記念ポートアイランドリハビリテーション病院）
　阿　部　貴　文 氏（魚沼基幹病院）

大会HP　　公式Facebook　　公式Twitter　　公式Instagram

# 学術局生涯学習部だより

学術局長　髙　鳥　　真
生涯学習部部長　田　中　　健

会員の皆様には平素より当士会活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、依然、多くの方が大きなリスクを抱えながら日々の業務にあたられていることと存じます。どうぞ、くれぐれもお身体にご留意ください。

## ■　第２回新潟県リハビリテーション専門職学術大会　盛会裏に終了しました！

過日、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて、第２回新潟県リハビリテーション専門職学術大会が開催されました。本学術大会は３年に一度の頻度で開催され、県作業療法士会と県言語聴覚士会、県理学療法士会の合同学術大会です。これは全国的に見ても珍しく、リハビリテーション専門職が三位一体となり、健康立県の一翼を担う事業としては最大の活動となります。

この度の学会では、県作業療法士会四方秀人大会長のもとテーマを「地域共生社会に向けた協働と挑戦」とし、株式会社オリィ研究所所長で分身ロボット「OriHime」開発者である吉藤オリィ氏をお招きし特別講演を行い、その他、シンポジウム、共通セミナー、各士会セミナー、一般演題発表等、盛りだくさんの内容となりました。依然として続く感染禍ではありましたが、感染対策を施したうえで実施し二日間を通して605名の参加がありました。ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、運営に携わっていただきました皆様、誠にありがとうございました。

次回は３年後の2025年、県言語聴覚士会の担当で開催される予定です。お楽しみに！

### 大会表彰

●優秀演題賞

PT3-4「介助歩行で退院した後、歩行不可となった大腿骨近位部骨折術後症例の特徴」

新潟中央病院　理学療法士　保　地　真紀子

●大会長賞

OT3-3「蕎麦屋再開の合意形成から地域活動へつながった通所リハビリの事例」

介護老人保健施設やまぼうし　作業療法士　菅　井　　裕

●リハビリテーション協議会賞

ST2-3「右視床出血後、左半側空間無視、左１/４盲を呈した１症例」

長岡西病院リハビリセンター　言語聴覚士　安　達　寿　子

●フレッシュマン賞

OT1-2「多系統萎縮症患者へのコミュニケーション支援」

新潟県地域医療教育センター魚沼基幹病院　作業療法士　近　藤　孝　覚

**参加者数**

| 団体名 | 事　前 | 当　日 | 非会員 | 関連団体・その他 | 学　生 | 一　般 | 小　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PT士会 | 284 | 21 | 2 | 5 | 51 | 0 | 363 |
| OT士会 | 164 | 4 | 2 | 16 | 4 | 1 | 191 |
| ST士会 | 45 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 51 |
| 合　計 | 493 | 29 | 6 | 21 | 55 | 1 | 605 |

## ■　第29回新潟県理学療法学術大会

開催地区：上越地区
会　　期：2024年３月　予定
会　　場：上越市内　予定
大 会 長：山本　典子（上越地域医療センター病院）

### 2022年度新潟県理学療法士会主催研修会　予定

| | 研修会 | テーマ/講師 | 日程 | 会場 |
|---|---|---|---|---|
| 2月 | 第３回領域別研修会（心血管理学療法） | 循環器疾患における病期別理学療法の展開<br>講　師：椿　淳裕　先生（新潟医療福祉大学）、今井遼太　先生（魚沼基幹病院）、梨本智史　先生（厚生連新潟医療センター）、他 | 2月23日㈭祝 | 晴陵リハビリテーション学院・Webオンライン ハイブリッド開催 |
| 3月 | 第113回研修会 | 高年齢者の社会参加と就労支援への取り組み（仮）<br>講　師：佐藤成登志（新潟県理学療法士会会長）、中山裕子（新潟県理学療法士会副会長）、郷　貴大（新潟県理学療法士会副会長） | 3月25日㈯ | 新潟ユニゾンプラザ Webオンライン ハイブリッド開催 |

### 2022年度臨床実習指導者講習会

| | 主催 | 会場 | 日程 | 定員 |
|---|---|---|---|---|
| 臨床実習指導者都道府県講習会 各校教員　理事　他 | 看護リハビリ新潟保健医療専門学校 | Web | 5月7・8日 | 100 |
| | 新潟医療福祉大学 | 同　校 | 9月17・18日 | 100 |
| | ~~県士会学術局~~ | ~~佐渡市内~~ | ~~10月8・9日~~ | 中止 |
| | 晴陵リハビリテーション学院 | 同　校 | 11月19・20日 | 80 |
| | 県士会学術局 | Web | 12月17・18日 | 100 |
| | 新潟リハビリテーション大学 | 同　校 | 2023年３月 | 50 |

## ■　2023年度領域別研修会企画・運営責任者公募について

学術局生涯学習部では、日本理学療法士協会の12分科会が2021年度から学会として法人化されたことを受けて、新生涯学習システムでの履修促進を背景に各分科会に沿った研修会の企画・運営を行っていく方針としました。つきましては、会員の皆様からのご協力を賜り企画ならびに運営を行っていただける方を公募いたします。県士会ホームページの募集内容をご確認頂きご応募頂きますようお願い申し上げます。

## ■　新生涯学習制度について

生涯学習制度の概要

〈生涯学習制度の３つのポイント〉

１．日本理学療法士協会（新潟県士会）へ入会した理学療法士は、まず「前期研修」を履修します。その次に「後期研修」を履修することで「登録理学療法士」となります。

２．「登録理学療法士」となった本会会員は、５年ごとの更新を目安に自己研鑽を続けます。

３．登録理学療法士を基盤とし、より高い専門性を兼ね備える「認定理学療法士」、「専門理学療法士」制度を構築します。

詳しくは、協会ホームページをご確認ください　>>>
https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/

■　**新型コロナウイルス等の感染予防・感染拡大防止への対応について**

当士会主催の研修会実施に際して、新型コロナウイルスなどに対する感染症予防および感染拡大防止の対策として以下のように対応していきます。

**＜当士会の対策＞**

研修会に関わるスタッフは、日常における体調管理を徹底し、検温、手洗い、うがい、マスク着用等の感染予防を励行し、研修会開催前の行動歴を確認した上で対応をいたします。

**＜参加者へのお願い＞**

●発熱、咳などの症状がある場合は、参加を控えていただきますようお願いいたします
●参加の際は、マスクの着用をお願いいたします
●受付時に体温を計測させていただき、37.5℃以上の方は参加をお断りさせていただく場合がございます
●手洗いや備え付けの消毒液のご使用をお願いいたします
●研修会時のソーシャルディスタンスの確保にご協力をお願いいたします
●受講中に体調の変化が認められた場合は、無理をせずに早めにスタッフへお申し出ください
●今後の社会情勢によっては、研修会を中止させていただく場合もございます。開催の有無につきましては、新潟県理学療法士会ホームページ等でお知らせいたしますのでご確認ください

■　**県士会主催Web研修会への参加方法について（Zoomシステム利用の場合）**

●パソコンもしくはスマートフォンに、Zoomのアプリをインストール（無料）し、登録を済ませてください
●Zoomの使用につきましては、各個人での責任でお願いいたします。接続中は多くの通信量（およそ90分で0.5GB）が必要です。Wi-Fi環境をご確認の上ご利用ください。研修会にかかる通信料金については、県士会は一切の責任を負いかねます。予めご了承ください
●お申し込み後、申し込み時のメールアドレスへ参加に必要なURL、ID、パスコードをお知らせします。研修会によってはZoomミーティングの事前登録をお願いする場合がございます。
●研修会開催日３日前になっても参加に必要なURL、ID、パスコードが届かない場合は、各研修会の問い合わせ先へご連絡ください
●研修会によってはZoomミーティングへの入室方法が異なる場合がございます。各研修会案内をご確認ください
●研修会時に出欠確認を行う場合があります。県士会主催の研修会へ参加の際は、**名前を「会員番号_氏名（フルネーム）」でご登録**ください
●Zoom画面の録画や録音、撮影は一切行わないようにお願いします
●不正行為が確認された場合は、受講を認めずポイント付与にならない場合があります

**※メールアドレスの入力不備により参加できない事案が多く発生しております。登録の際はご注意ください**

☆研修会ポイント認定について

**遅刻や早退はポイント認定にならない場合がありますのでご注意ください。**

☆研修会申込み後のキャンセルについて

**ご注意ください！　研修会申込み後のキャンセルについては返金ができません。**

**原則として参加承認後のキャンセルに伴う返金は出来ません。また、参加費の支払いをせずに欠席された場合でもご入金頂く場合がございます。あらかじめご了承ください。**

お申し込みに際しては、よく検討した上でお申し込みくださいますようお願い致します。また、止むを得ず欠席の場合は、キャンセル用アドレスからご連絡頂きますと幸いに存じます。 ご理解とご協力をお願い致します。

**キャンセル専用アドレス：pt.gakujutu@gmail.com**

※研修会が天候等の事情で止むを得ず中止・延期となる場合は、メールにてご連絡をいたします。協会に登録してある連絡先メールアドレスに送信いたしますので、メールアドレスの登録及び受信可能なアドレスであることを確認してください。また、県士会ホームページに情報掲載を行いますので、必ずご確認ください。

○研修会DVDの貸出しについて

木戸病院　　江川　真司　　E-mail：rehabilitation@kido-hp.com

○新生涯学習制度関連のお問い合わせ

桑名病院　　田中　　健　　E-mail：ken-pt@mail.goo.ne.jp

○学術誌関連のお問い合わせ

新潟リハビリテーション病院　　立石　　学　　E-mail：nirehp.m-tateishi@aiko.or.jp

○学術局全体のお問い合わせ

晴陵リハビリテーション学院　　髙鳥　　真　　E-mail：takatori@seiryou-reha.ac.jp


各種車椅子・座位保持装置・ベッド・コミュニケーションエイド
福祉機器・介護用品・介護保険レンタル・住宅改修
㈱ G・T・B (オーエックス新越)
〒956-0017 新潟県新潟市秋葉区あおば通2-28-27
TEL 0250-25-2626　FAX 0250-25-7710
http://www.gtb-niigata.jp

有限会社 長谷川義肢製作所
〒951-8124 新潟市中央区医学町通り1-44
電話 (025)223-3630
FAX (025)222-2750

HII 看護リハビリ新潟保健医療専門学校
厚生労働大臣指定理学療法士養成施設・看護師養成所
〒950-0086　新潟市中央区花園2-2-19
TEL:025-240-0003　FAX:025-241-6655
URL: http://www.hi-college.ac.jp

全てはお客様の笑顔のために
まごころ印刷の
株式会社タカヨシ
帳票
発送代行
ラベル・シール
WEB・デジタル
本社・工場
〒950-0141 新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21
TEL(025)381-2000㈹
医療関係印刷物はタカヨシで https://www.takayoshi.co.jp

義肢・装具・車いす・インソール
ご相談、ご用命は弊社にお任せください。

㈱田村義肢製作所
〒950-1151 新潟市中央区湖南21-11
TEL：(025)281-0303
FAX：(025)281-0339
田村義肢 検索

リハノメ PT・OT・STのための総合オンラインセミナー
年間200本以上配信！
1ヶ月見放題プラン
通常料金3,080円が
初回限定
980円
お申込はこちら▶
リハビリテーションを『かたち』にする会社 gene
seminar@gene-llc.jp
Tel.052-325-6611 リハノメ 検索

# 事務局ニュース

## 1　会員の動き「2022年11月～2023年1月集計」

**【新入会】**・２件
**【県内異動】**・25件
**【転　入】**・７件
**【転　出】**・１件
**【休　会】**・24件
**【復　会】**・７件
**【退　会】**・８件
**【育児休暇割引】**・５件
**【シニア割引】**・１件
**【施設名称変更】**・０件
**【施設住所変更】**・０件

## 2　他士会関係

**①ニュース（他県士会）**

京 都 府　No.291
熊 本 県　第140号
長 野 県　No.81
北 海 道　No.233
千 葉 県　第225号
大 阪 府　第294号　第295号
和歌山県　No.97
秋 田 県　第207号
兵 庫 県　No.197
静 岡 県　No.195　No.196
茨 城 県　No.178
神奈川県　No.294
広 島 県　No.272
愛 知 県　No.207

**②学術誌・学会誌**

新潟県作業療法士会学術誌Vol.17　2023

**③その他**

2022年度版新潟県訪問看護ステーション活用ガイド（新潟県訪問看護ステーション協議会）
ニュースレターNO.23（新潟県難病医療ネットワーク）
年報ひたちの（公益社団法人茨城県理学療法士会）
next STage 第83号（新潟県言語聴覚士会）
第９回甲信越在宅医療推進フォーラム（第14回在宅ケアを考える集いin越後2022）（新潟県在宅ケアを考える会）
Moving vol.46 2022（公益財団法人運動器の健康・日本協会）
響希Vol.14（一般社団法人新潟県介護支援専門員協会）
設立20周年記念誌（一般社団法人新潟県介護支援専門員協会）
JPTANEWS Vol.339　Vol.340
NO Limit　vol.91　Vol.92
陽光NO.34（新潟県健康づくり財団）

## 3　異動･休会･復会･退会の手続きについて

異動（休退会含む）が生じ次第、速やかに協会マイページより、変更手続きをお願い致します。

休退会、転出については、年会費の未納がある場合はお手続きが出来ません。納入確認後にお手続きをお願いします。

「育児休業割引」「シニア割引」「海外会員割引」もございます。休退会手続きの前に、協会または県士会ホームページをご確認ください。

※マイページID、パスワード紛失の場合は日本理学療法士会TEL:03-6804-1421へお問合せください。

＜自宅会員へのお願い＞

現在、施設に所属していて自宅会員で申請している方へお願いです。

所属施設でまとめて郵送物を受け取れますよう自宅から施設への変更手続きを協会マイページより変更手続きをお願い致します。

**［問い合わせ］**

**〒950-0912　新潟市中央区南笹口１丁目１番38号**
**コープオリンピア笹口303号**
**公益社団法人　新潟県理学療法士会　事務局　宛**
**TEL：025－250－7660　FAX：025－250－7661**
**（電話対応は月曜～金曜の９：00 ～ 16：00）**
**E-mail：jimukyoku@nipta.jp**

# 育児休業割引、シニア割引のご案内

■（公社）日本理学療法士協会、（公社）新潟県理学療法士会の年会費には割引制度があります。

■申請は協会マイページの メニュー＞会員管理 ＞ 会費割引申請 からお願い致します。

■「海外会員」割引もございます。

■詳細は協会ホームページをご参照ください。

1．育児休業割引

・【協会年会費・県士会会費（新潟）】割引後 ご請求額 合計 5,000円

・【対象】育児休業期間中に割引申請を行った会員（申請書類が必要です）

・【割引適用年度】申請年度の翌年度の年会費に適用

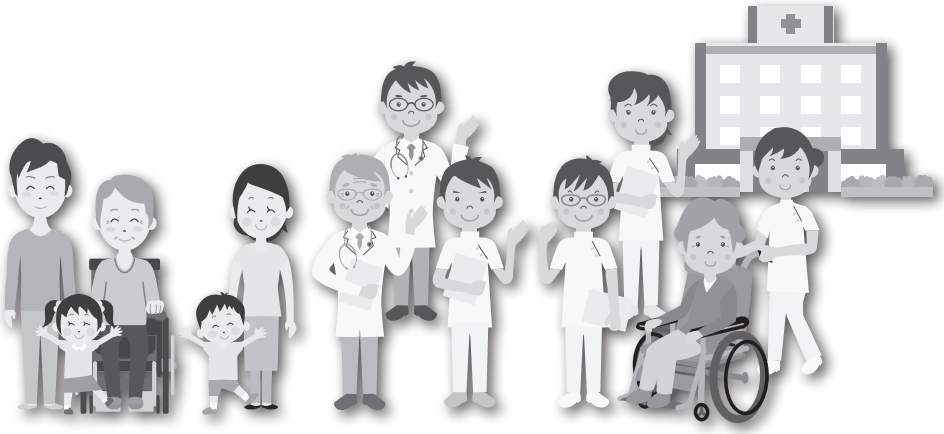
・育児休業を取得されていない方（退職している等）は対象外です

2．シニア割引

・【協会年会費・県士会会費（新潟）】割引後 ご請求額 合計 5,000円

・【対象】満65歳以上かつ会員歴25年以上の在会会員で割引申請を行った会員

・【割引適用年度】申請年度の翌年度の年会費より適用を開始し、以降自動継続です



## お詫び

ゆきわり草№201号　P７「新潟シティマラソン 2022 ユニバーサルラン参加報告について」の記事につきまして、執筆者の所属と氏名が記載されていませんでした。執筆された方を掲載させていただきます。申し訳ございませんでした。

執筆者　魚沼基幹病院　リハビリテーション科　小林　仁美

## 広報部ニュース

# メルマガ配信について

新潟県理学療法士会広報部では、「県士会からのお知らせ」をホームページの「会員限定ページ」へ掲載しております。掲載は月１回を基本とし、掲載した情報をメルマガにて配信しています。

### １．メルマガ登録方法について

【パソコンまたはスマホから】

QR コードからでも
登録できます

【メルマガ登録について】
①職場での登録、個人の登録、どちらでも構いません。
②フィルター設定をされている場合は、下記アドレスの登録をお願いします。
admin@nipta.or.jp
③登録は、「会員番号」「氏名」「メールアドレス」を入力していただくだけです。
④登録された内容は、メルマガ発信以外に使用いたしません。
⑤登録後、「承認メール」が届きます。「承認のリンク」のクリックをして登録完了となります。
必ず、承認の確認をお願いします。
⑥メルマガについて、ご不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。

### ２．ホームページへの掲載ならびにメルマガでの情報配信を希望される方へ

各種研修会等の情報をホームページへ掲載ならびにメルマガでの情報配信を希望される場合は、掲載する原稿を作成いただき、下記問い合わせまでメールにてご連絡ください。なお、掲載ならびに配信にあたっては新潟県内の関連団体ならびに新潟県理学療法士会会員が関与する研修会等を基本とし、月１回の定例配信のみとなりますことをご了承願います。

【問い合わせ】
（公社）新潟県理学療法士会　事務局広報部長　松林義人（新潟リハビリテーション大学内）
TEL：0254-56-8292（代表）　Mail：matsubayashi@nur.ac.jp

## 編集後記

2022年度もまもなく終わりとなり、別れもあり、そして新しい仲間との出会いもあることでしょう。皆さんにとって１年いかがでしたでしょうか。日々の経過を早く感じる年齢となり、今年度の意気込みのほとんどを達成できないまま新しい年度を迎えることで焦りを感じています。2023年度は私にとって新たな年となりそうです。2023年度も引き続き会員の皆様が変わらずご活躍されますことを祈念しております。　（Y）

**ゆきわり草**　No.202
編集責任者　松　林　義　人
問い合せ先　新潟リハビリテーション大学
〒958-0053　村上市上の山2－16
TEL（0254）56－8292
FAX（0254）56－8291
E-mail：matsubayashi@nur.ac.jp